明治四十年十一月三日第三種郵便物認可　（日刊）　明治四十一年二月八日（土曜日）　京城新報　第七十三號　（一）

京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月金卅五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 一月七日
發行編輯兼印刷人　山下英勝
京城西署西小門通
發行所　京城新報社　電話六六

新疆旅行記（續）

此地に於て土耳古人と支那人との人口の比例に關して信用すべき報告を得ること困難なり。官吏は支那人の多數なることを主張すれども土耳古人は之を否認す。余が五月中に訪ひたる場所は支那人を以て充たさるゝと言はるゝも、余は寧ろ中國人よりも土耳古人の方却て多きを見たり。支那移住民は諸方に散在し、都會に住するものは比較的少數なり。然れども特別の節、例へば祭禮なぞの場合には方々より、甚しきは數日の旅路を敢しなぞして都會に集まるなり。新疆にて生れたる人々は吾等に對する行爲頗る衰退なれども、最近に支那本部より移住せるものは、其本國に於けるよりも遙に無禮なるが如し。この禮讓を缺き粗野なる言辭を使用するは、余が涼州に在りし時は支那人一般の風なりしが、思ふに是れ北甘肅並に戈壁砂漠に於ては四圍の風物の粗野なるに依るか、若くは多數の流罪人及不興を受けたる官吏に對して叮重なる言行に出ずるに及ばずとするに依るか、定かならず蘭州より小商人は白李を滿載せる龍を以て吐魯番より到來し居りしが、この李は本國のものと等しき味を有し、一個につき二亦錢位の普通の四文にて賣り居るも、やがて尚安くなるべし。葡萄も亦間近く吐魯番より到着すべき筈なり。吐魯番には葡萄の出來ること夥しく、一車一兩か其以下にて購はれ得る程なり。吾等の知友の一人なる羅馬「カソリック」教の「ボール」君は、本年この葡萄にて葡萄酒を造る考なり。この人は時計製造人なるが、露西亞の革命騷にて其注文せる時計は一向に到着せざるを以て、其本職に就くこと能はざるなり。

六月十四日、余は此地に殖民せる一波斯人に會へり。彼は美髯烱眼、風采堂々として亞細亞人よりも寧ろ外國人に類せり。余は彼に亞剌比亞語にて記せる格言集の一冊を呈せしに。彼は群集せる土耳古人等に向て聲高く讀み上げたり。彼はこの書を求め尚他に亞剌比亞語の書なきかを尋ね、余と共に吾等の寓居に來れり「ハンター」氏は以前より彼を知れる由にて、彼は回々教徒の中にありて甚だ勢力を有する人にて、又最も博學なる人の一人なることを語れり。この人は大なる羊群を所有し、富裕の生活を送れり。

六月二十七日には「ウ、ユエー」祭（龍船祭）ありき、祭の行はるゝ場處は市外五里計なる岩丘の麓にして、丘頂には高塔及一寺院立てり、人々は市より車に乘りて此に赴くを以て車の需要の多きこと一日前に備入れの申込をなさゞれば全く間に合はざる程なり。余が乘りし車には二人の支那人と二人の回々教徒との乘合ありき。車は四方を開放ちたる大車と稱するものなるが、其鐵路の悪しきこと甚しく、車が大石を來き碎きつゝ行く間に、余の肋骨も碎くるにあらずやと思ひしこと一二度ありき、暑氣强き日なるに加へて乘合人の込めることなれば誠に苦しき旅行にて、若し道程が今一里も長かりせば、車と余と何れか先に粉碎すべきかを怪みたる程なりき。併し祭は余が曾て見たる中の最大にして且つ最も興味あるものなりき。

間島問題に就て（上）

間島問題の由來　豆滿江上流地方に當れる支那朝鮮の國境は古來明かならず兩國歷代の朝廷亦之を化外に置きて深く其の所屬を爭はざりしも朝鮮人は已に久しき以前より該地方に移住し村落を造り城池を築き現今の揮春城の如き亦朝鮮人の經營せし所にして該地方の實權は自ら朝鮮人の所轄に歸し支那亦敢て之を爭はざりしも清朝滿洲より起りて大明を亡し新興の威勢を以て四方を經略するに及び漸く北滿朝鮮接壤の地に着目するに至れり是に於てか康熙五十年使を遣して豆滿江流域地方を視察せしめて清韓兩國の地域を明にせんことを提議し五十一年双方委員を派遣して山河自然の形勢に察し地利の如何を踏査したる後土門江を以て兩國の境界と爲すに決し此處に初めて彼の有名なる境界の石碑を樹て以て兩國領土の分域を明にしたり土門江は土們江と會流する豆滿江上流の支流にして土門江と會流する處には土門江の岸に沿ふ數里に亘る土壁あり洪水氾濫の患に備ふが爲にして今尚之を現存し所々門戸を設るを以て土人稱して土門と爲す是れ土門江の稱ある所以にして其の上洗亦た土門子村あり故に土門江と土們江とは確然たる區別あり石碑の稱して土們江と明記する所以は即ち土們に依るべくして土們に附會する可からざるや明かなり康熙五十二年清朝は初めて揮春及寧古塔の二地に官吏を派して該地方の經營に任せしめしも實際に於ては未だ何等施設の實績を示さざりき爾來數百年清朝は間島地方を以て全く化外に放置し朝鮮人獨り各處に村落を爲し農耕を營み居住の人々も漸次增殖するに至れり然るに光緒七年に至り清國は初めて揮春に招墾局なる官衙を設け陳某を以て總辨となし外に委員七名を置き以て南滿洲及び本部諸地方人民の移民を獎勵し專ら開墾拓植の經營に力めたり然るに此時には未だ間島に着目せず光緒十二年に至り間島が土地豐饒にして物產の豐富なるを知るに及び招墾局の支局を局子街に設置し委員中の一人たる程定弟を以て支局長とし先住者たる朝鮮人を壓制したれば支那人の移住する者年を追て增加し現今間島に居住せる支那人の多くは實に程が獎勵の結果なりと云ふ併し間島は境界石碑に據るも朝鮮の領土にして且事實朝鮮人が久しき以前より居住せし實跡に徵するも確かに朝鮮の領土と認むべく朝鮮政府も亦從來久しく然か考ゐ來りたる者なるを以て局子街に清國招墾局支局なる官衙設置され居住せる朝鮮人が甚だしく迫害を被るに至り是處に端なくも兩國間に於ける所謂間島所屬問題の起れると共に亦數百年前に遡りて兩國境界の碑面に明刻せる土門江の研究問題を生ずるに至れるなりされども日清戰爭以前に於ける朝鮮は恰も清國の附屬に等しく事大小となく唯清國の命を仰ぐのみなれば間島問題の如きも亦積極的に之を爭ふ能はず僅に一二回交涉して其の境界を明かにせんことを請ふに過ぎざりしに清國は其後間島地方に新に延吉廳を置きて吉林將軍の管轄に屬せしめ同知官を派遣し行政財政及司法を統轄せしめ又た統領胡殿軍をして二營の兵を率ひて該地方に駐在せしめ以て間島をして純然たる清國の領土たらしめんとするに至れり

黑鳩將軍の談（上）

舊臘二十七日のノーウオエ、ウレミヤ紙上にクロパトキン將軍の談話と題して同將軍が露國の現狀に對する談話を揭げたり即ち左の如し

余は數年クロパトキン將軍を見るの機會を得ざりしが久しく見ざる間に將軍の風貌著しく變れり將軍の顏容は多少老衰せられ鬚髯も頭髮も半白となりしも彼の小さき眼は依然として炯々として尚ほ其の精力の盛んなるを示せり我等の談話は將軍が少なからず趣味を有し居らるゝらしき我が露國內政の事に涉れり

將軍曰く余は斯かる僻遠の村落生活を爲し居る者なるが貴下等に話す可き事とては近頃に至りて彼の痛嘆す可き日（戰時）の彼の政權の弛緩動搖は確かに恢復せられたるに相違なし我が國家的生存の最重要の要素なる農民は政府が彼等の眞の要求を迎へて其の土地私有を多からしめ其の生產を增殖せしめて彼等の生活狀態を改良せしむるの信念を失はざるなり我等の居る僻遠の村落農民は所謂革命思想などには甚だしく遠離し居れり彼等は何より第一に各自の生活狀態を善良ならしめん事を欲せり要するに彼等は各自の物質的の要求に滿足を得んとするに過ぎず若し我が政府にして農民の物質的狀態を善良ならしめば人民は忽ち全く安靜に歸するに相違なし然し此の農民の改革問題と共に地方官の意義を强むる事に注意せざる可からず近時是等の方面にも改革の準備を爲せるが如し土地兼併に次で來るは土地を失へる勞働者の著しく增加す可き事是れなり故に余は一般に勞働問題に對しても正當なる解決を得ん事を希望する者なり兎に角に農民の生活狀態を改善して今よりも多少安全なる生活を得せしむる事は現今の急務なり

此の問題は大に將軍の趣味を感じ居る所なりと見ゑて將軍は最も熱心に此の問題に就きて談話せり

貴君は現今の我が國會に對する余の意見を質されたるが余は此の問題に對しては唯だ一個人として新聞に依りて事件を識り萬事を一個人の見地より觀察する普通の觀測者の言として述ぶ可し余は第二議會にも赴きたり現時の議會には二回傍聽せり第三議會は余に快感を與へたりと言ふを憚からず議員の多數は眞面目なる勤勞を欲し温和派の議員中には兩極端に傾く形勢なきものゝ如し議員は各方面より選出せらるゝ事なれば其の感想意見も種々樣々なる可きも兎に角に議會は漸々組織を完成して結果のある執道に進み居るものゝ如し然し議會は解散せらるゝ毎に余の觀察する所に依れば議會に對する地方民の趣味は大に減ずるものゝ如し

記者曰く將軍は現今議會は安靜になりたりと話されたるも我等が日々耳にする所は依然として掠奪殺人等の騷々しき事のみに非ずや

將軍曰く然り安靜になりたるを認めらるゝといふに過ぎず國家改革の際の各地方は各種の變動を經ざるを得ざるも當然なる可し

記者曰く政府反對運動には異民族（波蘭猶太民等）の力大に與りて力あるものゝ如し此の異種民族問題の解決に對する將軍の意見を聞くを得可きや

將軍曰く余は中央亞細亞の此の邊境に居住せり中央亞細亞の土民は我等に心服し露國に忠順にして何等政府に反對するが如き形勢あるを認めざるなり露國人にて中央亞細亞民の爲めに働きたる人々少なからざるが彼等は皆な之を德として記憶せり

記者曰く然し此の邊境地方にも革命運動のありし際に隨分騷々しき事ありしに非ずや

將軍曰く中央亞細亞地方の騷動は其の地方民の起したる騷動に非ずして皆な他國より移住し來れる者の仕業なり故に革命騷ぎは忽ち鎮定せられて地方人民の間には更に其の根底を得る能はざりき

貴下は軍隊の革命運動の事を言はれたるか余は露國の士官兵卒の如何を識れる既に久しく又此の革命騷ぎの際にも彼等の行動を觀察する事を怠らざりき

露西亞內地の最近の出來事や日露の戰爭に徵するも露國の士官兵卒は陛下に忠實にして獻身的服從を有し居る者なる事明かなり種々の困難に遭遇しながらも軍人は其の宣誓を忠實に奉じ其の名譽を完うして困難なる境遇を脫し得たるに非ずや勿論例外の事も無きに非ざるも其は甚だ稀少なり革命運動が軍隊に入りたるは大に悲しむ可き事なるも今日までの所にては尚は表面に止りて其の根深からざれば若し士官の補充を至急に爲すを得ば左まで憂ふるに足らざる可し

士官は戰時平時の別なく是れ軍隊の主力なり下士卒の服役年限の短縮は士官の勤勞を大ならしめたるに相違なし士官の生活は中々繁忙なるも生活困難なり士官の生活狀態を進むる事に注意せざるは不可なり此の事に關して爲す可き經營事業一にして足らず軍隊は大元帥陛下に對して士官の俸給增額の報を感謝の意を以て迎へたり

クロパトキン將軍は更に我が露國の將來に關する談話を爲して我等の會談を終たり

將軍曰く余は堅に信せる如く今も確信す露國の偉大なる將來は其の國威の全盛、國家の統一、其の國力の發展に在るを確信せざるを得ず余は露國が遭遇したる敗戰の經驗よりして尚ほ且つ勝利者たる結果を得可きを信ぜざるを得ず露西亞國民は我が陛下に對して忠義なる人民なるを以て能く病患に耐へて後ち一層その身体を强健ならしむ可きを信ずるなり云々

十二月中の仁川貿易（三）

（三）白木綿　本品は總して需用少く當港にては賣行僅少なれば金巾類の賣行以上の如しとせば本品の賣行一層不況なりしこと想像するに足るべし隨て相場も變動なし

	最高	最低	平均
細地別上	二,000	二,000	二,000
同　上	一,七00	一,七00	一,七00
中細地上	一,七00	一,七00	一,七00
同　下	一,五00	一,五00	一,五00
太地上	一,三00	一,三00	一,三00
同　中	一,二00	一,二00	一,二00
同　下	一,100	一,100	一,100

（四）卷煙草　本月は本品の賣行最好況なる時季なれば市中一般に相應の賣行あり殊に歲暮の進物用としても多少の賣行あり各地方よりの注文相應入込み他品の不景氣なるに關せず相替らず好況を見たり歲暮進物用として需用せらるゝは官煙口付及び洋煙の金口最行はれたる由官煙は朝日最も賣行宜しく敷島大和之に次ぎ洋煙は土耳古埃及にして賣行好きは、エム、シー、シム、リアル（土耳古）ヲーシサス、チクターヲッチエス等なるが近來オシソスを愛用するもの增加せんと云ふ本月末の相場は左の如し

	最高	最低	平均
スター百入一函	四六,五00	四六,五00	四六,五00
チエリー同	三九,五00	三九,五00	三九,五00
リーリー同	三五,二00	三五,二00	三五,二00
オールド同	四三,000	四三,000	四三,000
ヒーロー同	四0,000	四0,000	四0,000
ハーロー同	二九,四00	二九,四00	二九,四00
オリエンド同	四九,五00	四九,五00	四九,五00

小説

紅のみだれ（六十七）

永井櫻園

お松は尚も辭を繼いて、

「すると、夫婦の言草が酷いぢやありませんか、今日死ぬか明日死ぬか、分りも爲ない病人に、那樣親切を盡したつて、死んで了へばお前の親切は水の泡になつて本人も知らないで死んで了うんだよ、それでも親切を盡すと云ふのかね）と、斯う云ふのでせうだから、私これればかりの、端金ですもの本人に知れやうと、知れまいと、私は御恩返しした意ですから、氣地が宜しうございます、と云つて、潮と藥を買つたり氷を買つたりして、用足をした合間々々に介抱したのです。」



山田も精之助も、お松の話を聞いて其の親切に泣かずには居られなかつた、お松は如何にも殘念さうに、

「まだ其上に、山田さんは幸運者だ、お前のやうな親切者が附てるから。序に今月分の下宿料も拂つて上げて下れると宜い（に）とどうでせう、斯麼事云ふのですよ、大抵考へて見ても分りさうなものぢやありませんか、私のやうなものを、山田さんがお相手になさる方か方でないか、臆も立たないで呆れて了ひました。ですから、有れば下宿料でも何でも拂つて上げますが、お金子が無いから爲方がありません、と好加減な返答して、それからは碌々相手にもなりませんでした。これは貴方が熱のために浮されて居なさる時ですから、貴方は御存じないでございませう、那樣に薄情な事を言つたり爲たりして居りながら、少し熱も退き、お口も利けるやうになると、打て變つたほど親切らしく爲て、自分等夫婦が介抱したやうな事を云ふのでせう、ですから私は腹が立つやら馬鹿々々しいやら、暇を取つて行く時には、スカツリ貴方にお話爲て行かうと、それを樂にして居つたのですが、いよいよモウ我慢が能なくて、今日限り歸つて行く事になりましたからそれでお話し申すんでございます、惡い事をお勸め申しは致しませんが、斯麼下宿にお居でなさると、大病でも煩つた時は有る生命でも無くして了ひます。一日も早く御病氣が全快なすつたら、他へお轉宿なさるが宜しうございます。」

と、赤誠を面に表はして語つた。山田は感慨の淚を拂ひもあへず、

「私は、眞箇熱のため人事不省であつたから、お前さんが那樣親切を盡して下さつたとは、夢にも知らず、此家の夫婦が心を罩めた看病で、これまでに快くなつたとばかり思つて、此の恩は一生忘れないとまでお禮を言つて置いた、實に怪しからん奴だ。私も不思議に思ふは思つたのだ、あれほど平常剛慾な夫婦が、能くも親切に看護して下れた事だと。しかし、知らないからお禮も言はなかつたが、眞箇聞いて見りやア、お前さんが居なかつたら、今頃は黃泉の人になつて居たかも知れない、此の御恩は一生忘れないで、屹度御恩返しするからね、何處へ往つても必ず行先を知らして下れ。私もモウこれ位に快くなつたのだから、宜い家さへあれば、直にも轉宿爲やうと思つて居た所だ、其話を聞いては猶更の事、一時も居りたく無いから、早速家を探して移る事にする轉宿したら是非遊に來て下れ。」

仁川たより

▲港灣浚渫の請願　韓國陸上の交通は逐年完備の域に向ひつゝあるに不拘海陸交通に伴ふ港灣の設備は未だ何等の見るべきものなきは吾人の遺憾に堪へざる所なり特に仁川の如きは韓國貿易港中其第一位を占むるにも不拘其港灣の不完全なる又他に多く比を見ざる所なり、斯の如きは獨り仁川市の繁榮上大なる支障たるに止まらず進んで我對韓貿易上に及ぼす惡影響は蓋し大ならずとせず、然るに仁川居留民中有志の士は見る所ありて曩に築港期成會なるものを組織し之れに關する種々の調査をなし且つ相當の運動をも試みたるも昨今に至り同會の消息は杳として音沙汰なく目賀田顧問の談話のそれの如く何時しか夢物語と消ゑ失せたり、然る所數日前の當商業會議所委員會に於て港灣浚渫に關する請願を其筋に提出する事に決したる由、吾人は今更其請願に關する功能書を吹聽する事をなさず只彼の夢物語の前轍を踏まざらん事を希ふのみ

▲市況不振の極　政界の紛擾は延いて經濟界に影響を及ぼし本邦各銀行の如きは非常なる警戒を加へつゝありしが其結果韓國各支店に向け政界紛擾の落着する迄或一定の期間内は營業資金は絶對に貸出しを禁ずるの方針を執るべき旨内命ありたるやに傳へらる、それかあらぬか韓國各支店に於ては近時貸出しを澁り專心廻收にのみ汲々として警戒に怠りなき狀態は何人も知る所の如し其結果一般金融界は不斷打擊を蒙むり各港とも殆んど商取引中止の姿に陷れると云ふも過言にあらざるべし而して此れが尤も甚だしき打擊を受けたるは釜山港にして同港の如きは昨今一二有力者の倒產を氣支ふものさへあるに至れりと云ふ

▲仁川病院廢止論　仁川病院昨年經營豫算額は一萬五千六百餘圓にして決算の結果四千五百餘圓の不足を生じ爲めに再昨日の民會に於て其補給案を議したるが其結果現今財政に餘裕なき民團は止むなく民團債を起して其補給の道を講ずるに決したりと、然るに同病院は民團法施行以前に於ては現時の松村院長の受負經營に任じおりしが當時は年々幾何かの餘剩を見つゝありしにも不拘如何に諸設備に改善を加へたればとて其經營は數倍額に上り剩へ一年四千五百圓餘の缺損を生ずるが如きは現時仁川民團の財政としては其維持困難なるべく旁々昨今同病院に對する批難の聲囂しく日々市民の信用を失墜しつゝあるが如き狀態なるを以て或一部の居留民中同病院の所在を不必要とし盛んに廢止論を唱導しつゝあるものあり(六日記)

經育電報

▲英艦隊の廻航　英國第四巡洋艦隊は五月太平洋に向け出

各地電報

……落す其理由は不明なり(七日發)

▲暴徒の歸順交渉　甲山郡内に出沒せし暴徒車東善以下二百三十二名は歸順の交渉を開始せり（六日午後咸興發）

雜報

●統監大磯行　古谷秘書官よりの來電によれば伊藤統監は一昨日同秘書官を隨へ大磯に赴かれ廿三日迄滯在の筈なりと云ふ

●皇帝皇后の感謝　一昨六日曾禰副統監參内謁見の際皇帝皇后は東京に於て韓太子の御優遇に對し非常に御喜悦遊ばされ感謝の意を表されたりと云ふ

●紀元節祝宴　來る十一日は紀元節に付曾禰副統監は統監府官邸に於て同日午後六時より祝宴を開かるべしといふ

●仁川清國領事の宴會　仁川港清國領事康恩相氏は一昨日午後六時半より同館にて新年宴會を開催し内外紳士を招待せりと云ふ

統監府の手落か

東洋火災保險會社發起人の筆頭秋田毅氏に對し當地の某大銀行は同氏所有の家屋土地其他の財產を擔保として昨年來多額の貸金を爲し居るとのことなるが此頃右擔保物の時價に變動を來したるを以て銀行は秋田氏に向て追加擔保を要求せしに秋田氏は如何なる都合なるか之に應ぜざるを以て甚だ迷惑を感じ居れりと云ふ、さるにても統監府は東洋火災の營業を認可する以前に於て認可規定に基き出願人たる秋田氏の財產調査を遂げたりや否

韓國中央銀行

目下東上中の荒井度支部次官は韓國中央銀行設立に關し具体的案を携へ伊藤統監に稟議したりと云ふ

漁業法案の發布

農商工部にては今回漁業法案を發布する筈にて目下起草中の由なるが之が實施に關して困難を感ずるに漁區の大部分が宮内府の所管に屬せる事にて其の多くは從前より同府所管に屬せざるものまでも經理院派員が勝手に同府所管なりとして徵税せし結果自ら同府の所管に歸せしものあり之等に對しては舊慣を調査し宮内府と交渉の上法令發布の實効を擧ぐるの方法を執る可しと云ふ

未墾地利用許可に就て

國有未墾地利用法發布せられてより既に半年此の間に貸下げを出願したる者四百名の多きに達せるも今日迄一人の許可せられたる者なき有樣なるが當局者の語る處によれば之が許可に關しては三箇の障害あるものゝ如し第一は未墾地の大部分が宮内府の所管に屬する事にして第二は未墾地の多くは附近韓民の燃料採取場として入會權を有せる如き狀態に存する事なり卽ち現に出願せる四百餘の未墾地の中調査濟のもの七十餘あるも此の中絶然たる國有にして韓民の入會權類似の狀態に非ざる者は二三箇所に過ぎず第三は出願者に農事經營の資力經驗に乏しき事卽ち許可の資格を有せざる事にして出願者中には自ら經營に當るの決心なく唯だ單に權利を獲得して他人に讓渡し或は資本家を說くの材料に供し以て其の間に利を占めんとせし者ある如く甚しきに至りては現に韓人が採取しつゝある燃料を目的として出願せる者あり而して第一の障害に關しては宮内府に交渉したる上閣議を經て假令所管は宮内府とするも此の法令に從ひて利用する事となし第二の障害に對しては出願者が附近韓民と交渉の上一定額の金員にて入會權を買收すれば格別農商工部に於て韓民の既得權を無視して許可すが如き處置を取らざる方針なり第三の出願者の資格に關しては既に礦山の許可を受けたる者數百件あるに拘らず多くは權利のみを得て轉買讓渡の間に利せんとせる者のみにして當局者は多數の費用と手數とを煩はして彼等の虛業を助くるが如き馬鹿〳〵しき經驗に鑑み與に經營の決心と資力を有せざる者には一切許可せざる方針にて調査しつゝある次第なれば現に出願せる全部の處理を見るは短日月の事に非ずと云ふ因みに東大門外の荒蕪地に對しては出願者二十餘名有るも之また宮内府の所管に屬せりと

●紀念章調製　昨年韓皇帝卽位式參列者に頒つべき卽位式紀念章は爾來本邦にて調製中なりしが來月末までには悉皆竣成する筈にて四月初旬之を頒布する由なりと

●中樞院副贊議俸給拒絶　中樞院にては同院副贊議俸給を度支部に向ひ支出方を請求せしに同部に於ては改正官制の官等表中俸給額記載なきを以て之が追加せらるゝまでは支出すべからずと之を拒絶したりと

●度支大臣の訓令　度支部大臣高永喜氏は財務署吏員中日韓人間言語不同の爲め行違ひを生じ之が爲め事務の阻礙を來さすとも計り難きを以て此點に注意すべき旨訓令を發したりと

●韓國普通學校の位置と職員　本年度に於て新設せらる可き學部所管普通學校の位置に就ては目下詮議中にして其職員は校長は韓人を任命し教官として日本人を採用する筈にて各府縣師範學校卒業生中より人選中なり尙間島在住韓民より普通學校設立方を請願し來りしを以て學部は右新設學校の内一校を同地に開設するの意見あり是亦研究中なりと云ふ

●仁川會議所の陳情　仁川商業會議所にては去る三日の決議に基き素倉建設の件に關し鐵道管理局長官大屋權平氏宛に陳情書を提出せり

ハリス博士の二公一伯評（太陽所載）

一、大隈伯は三人中にて最近世式の政治家と存候。伯は最も人民に接近し彼等の首領且代表者にして、大平民政治家卽日本のグラッドストーンに有之候。

二、山縣公は性質より云ふも教育より云ふも保守政治家にして、是公の軍隊生活の然らしむる所と存じ候。伊藤公は聰明にして人類に大なる同情を有する人に候。公は先天的に宮臣なり、故に宮中に大なる勢力を有し候。公は公明正大なる態度を以て大事件を處分され候。是の開放的なる僞らざる所が公の特長に候。

三、小生は各異なる方面に於て共に偉大なる彼等を同等に尊敬致し候、彼等は共に日本の安全なる嚮導者に候。

大連市建設事情（三）

（ウイッテ伯とクロパトキン將軍の爭論）

黑旭將軍の辯駁

其の後ち大藏大臣の下に設けられたる委員會の決議に依りて一千九百二年に外國註文問題に關して大臣會議は左の決議を爲せり卽ち各省より外國註文を契約する場合には大藏大臣の作成せる外國製品の物品表に據りて之を爲す可く內國註文は其の原料製造共に內國に於て完成するを得るものたる可し云々

以上記したる所に依りて之を見れば各省は自省の權利に依りて外國註文を爲し得るとのウイッテ伯の言明の誤れる事明かなり前大藏大臣ウイッテ伯の言明なる國防要求の爲め外國註文は廣き範圍に於て實行せられたりとの說も陸軍省にては之を認めざるなり

陸軍省は露國內地に於て得る能はざる止むを得ざる物の外は外國の注文を爲さゞりき故に露國には大砲砲架砲彈其の他の附屬品の製造所あるを以て陸軍省は一千八百九十八年より一千九百四年まで砲兵武裝の爲めにも亦旅順要塞武裝の爲めにも外國注文を爲さゞりき

余が陸軍大臣として任職九年間に外國に注文したるは僅に野砲並に速射砲各五門に過ぎざりき是れ我が內地製造の同一大砲と比較實驗を爲すの標本を得るの必要に出でしものなり又我國に於て機關砲發明者より內地製造の權利を得る以前に機關砲の註文を外國に爲せり

以上述べたる如くなるを以て『若し旅順の爲めに要する大砲を外國に註文せざりしとせば是れ專ら陸軍大臣が此の註文を爲すを必要と認めざりしか又は望まざりしに原因するものなり』とのウイッテ伯の言明は必ずしも正しきに非ざる事明かなる可し

陸軍省が外國註文を爲さゞりしは前記の政府の處理に從へる者にて此の處理は是れ各大臣の遵守せざる可からざる義務なりし也大連市建設の問題に關してはウイッテ伯は左記の事實を列擧して之に基きて大連市並に同築港事件と前大藏大臣の關係に就ての余の言明の正しからざる事を辯明せり卽ち

ウイッテ伯の說は左の四點に在り曰く

（一）一千八百九十八年三月九日の會議に於て陸軍大臣は旅順を外國船舶の爲めに閉鎖する必要を聲言せり

（二）一千八百九十八年五月七日附を以て陸軍大臣は書面を以て大藏大臣に關東半島租借地領內に急速鐵道敷設の必要なる旨を通牒せり

（三）一千八百九十九年二月二十二日の西比利亞鐵道委員會に於てクロパトキン將軍は特別委員の選定したる大連築港の位置選定並に商港築港の議に對しても一言の反對を爲さゞりき

（四）陸軍省より大藏大臣に對して近傍に商港を設くる爲めに旅順の防禦上危險なりとの言明を爲さゞりき又陸軍大臣が一千九百三年に極東歸還後に提出せる同大臣の最重要なる報告にも斯の如き反對意見を記せざりき

之を要するにウイッテ伯の寄書の一般感想に依れば陸軍大臣は自ら大連市並に同港の建設に關係し同港建設問題は西比利亞委員會に於て議せられ且つ戰爭の始るまで大連市並に同港の軍事關係上不利なる事は言明せられざりしといふに在り實際の事實は以上記する所のウイッテ伯の說と大に反せる者あり此の問題は甚だ重要なる問題なるも前記の諸點に就きて成る可く簡略に辯明する所あらんとす

軍隊の暴徒討伐狀況

一月廿六日殷栗郡南上面鳳岩村に賊徒出沒の情報により憲兵伍長以下四名は出發二十九日歸所其報告に依れば二十六日午後四時鳳岩村に斥候偵察を遂げ賊徒一名を逮捕す尙同面林桂洞南方高地に暴徒二十餘名集合しある情報により直ちに同地に至り之に迫り交戰十五分にして擊退し一名を殪し銃一挺を鹵獲す賊の一部は文化方面に其多くは豐川郡方面に退却するを以て直ちに追擊を行ひ殷栗郡南下面上院里に至るや午後八時にして暗夜蹤跡を失す同夜偵察の結果暴徒は豐川郡石灘場方面に集合し居るを探知し翌二十七日同地に向ふ途中殷栗郡西下面に至り聞くに同郡同面朴村鄭基煥は殷栗豐川地方暴徒の頭にして同村張基鉉と二名にして多數の暴徒を集合し居るを探知し偵察の結果鄭基煥及他一名は昨夜來我一行の追擊を受け今朝良民に裝ひ冠山市場に至りたる形跡あり尙暴徒は今朝豐川郡石灘場に集合しあるの情報により鄭基煥は新造網洞長鄭基煥なる者に逮捕を命し憲兵の一行は石灘場に向ふ午後四時三十分殷栗郡栗面雲城に於て賊徒約五十名は同村南方の松林より我射擊を猛射す交戰四十分にて灘場西北方に擊退す此際六名を殪し銃四挺を鹵獲す爾后追擊豐川郡仁鳳面廳浦に至り其蹤跡を失ふ同夜偵察により賊徒は同郡石溪洞及其附近に潜伏し居るを知り翌廿八日二三を逮捕せり▲二十七日下雲城の賊徒鄭允善の家宅を搜索せしに彼れは頗る赤貧なるに拘らず二錢五厘韓貨四十文一封となしたるもの八十本格納しあるを以て取調べしに周圍は新聞紙を以てし內容は土塊固める僞物なるを發見し之を破棄す▲二十八日鄭基煥及鄭基鉉は歸順の公示に依り自ら前非を悔ひ歸順の意を表し殷栗分遣所に自首せりと云ふ

京畿東部の賊情

一月三十一日砥平駐在所の報告に依れば卅日午後三時歸順し來りたる上北白兒詩洞手昌君の情報に依れば去廿九日首領李仁榮の率ゆる八十餘名の暴徒は上東面烏榮（東方三里半）に於て晝食をなし原州『ヅチィ』に向ひ進行せりと又鄭鳳俊の率ゆる二十餘名は廿九日夜上東面芝良里及三山里を通過して前記『ヅチィ』に向ひ進行せりと▲二月一日砥平出張宮脇巡查部長の報告聞牒の言に依れば去る廿八日中村討伐隊の大打擊を受けたる李麟榮の一隊は廿九日烏峴に於て朝食を喫し大部隊の行動は日本兵に追擊せらるゝの恐あるを以て之か視線を避くるには小部隊となりて逃走するに若かずと協議し李は其處より單獨にて何へか姿を隱し部下十數名づつに分離せしめ各別に間道を經て忠州方面に遁逃したりと云ふ▲烏峴安川軍曹の情報に依れば一月三十日午後五時三十分竹岩に着同地へ宿營士人の言に依れば昨廿九日午前十一時李九彩の率ゆる約百名は康川面後陌を經て梨湖に向て行進せりと而して安川隊は翌三十一日午前五時三山に向ひ烏峴に到る途中敗兵一名を捕へ午後三時梨峴に宿[illegible]村長の言に依れば廿九日李寅榮（李麟榮のことならん）の率ゆる約八十名（銃器三十携帶）は同村に於て朝食の後忠州方面に向ひたり二月一日午前三時敗兵の先導にて原州新垈（三山西南三里）に向て行進せんとす鄭鳳俊は數百名を率ゆる賊魁にして廿八日の戰鬪には參加せず原州附近にありしと敗兵陳述せり▲一月三十日夜暴徒約二十名長山里を通過せりとの情報を得討伐隊の一行は（酒本警部同行）其敵を追跡し郡內池內面池內に達せしとき士人の言に依れば全巨論を經て康川面に向ひたりと依て追擊の目的を以て康川面へ向ひ午後七時三十分葛梅（邑內より東方二里半）に着同地に宿泊す▲士人の言に二月一日午後一時葛梅より諜者を放ち忠州郡泉湖（距梅三里半）方面の偵察を命し置き翌二日午前七時葛梅發同八時康川の渡の前岸に於て前夜派遣したる諜者の復命に依れば暴徒十八名は昨一日午後原州郡觀德里に於て晝食中忠州騎兵八名之を襲擊し火繩銃六挺行裝七箇奪取せりと

●長興地方韓官の對日思想　全羅南道長興地方在住の韓人官吏は頗る日本政府に信賴せる狀あるが如きも是れ表面の假裝に過ぎずして裏面に於ては日本政府排斥の意を洩しつゝあるは依然たり蓋し弊政改善は韓人官吏の歡迎せざる所なるのみならず輓近日本人が韓國官吏に任用せらるゝを見て韓國の政權は日本人の掌握する處となる可しとて慷慨しつゝあり就中靈巖郡の如き吏胥の勢力强大にして郡守も尙且其鼻息を窺ふの狀況なりしに一朝稅務制度改正の結果不法徵收の途を杜絶せられたるより日本人に對し惡感を有するに至り往時郡衙の干涉嚴なりし當時に於ても斯る些末の點に東縛を受けたる事なしとなし日本國の保護を受けんよりは寧ろ他國の干涉を受くるに若かずとの意見を洩したる事ありと云ふ

●仁川の外國貿易額　先月中の仁川稅關の外國貿易は總計百六十一萬三千五百八十六圓なりしか其中輸入額は百二十七萬六十五圓にして輸出額は二十七萬九千八百四十九圓再輸出品額は七千百六十二圓にして輸入超過額は百三十三萬六千五百七十五圓なりしと

●中央金庫派出所設置　度支部にては來る三月より新義州稅關支署構內に中央金庫派出所を設置し稅關收入及び一般歲出入金の事務を取扱ふと云ふ

●金融組合の役員會　仁川金融組合は今明日中に重要事項に就き役員會を開催する筈なり

對星樓茶話

▲風說の取締、暗闘の種探し、陰謀の探偵是れ漢城に於ける政事の八割事務なり、之よりは骨董探がすに如かず。

▲朴齋純氏は左傳を愛讀し、李根澤氏は居を[illegible]相變勝負に夜を更かし、李址鎔氏は[illegible]すを好み、李完用氏は家書蹟に急なり、[illegible]重臣は往訪に忙はしく、趙義淵氏は鍛工となり、李俊溶氏は大院君の改葬に善く[illegible]光し、李夏榮氏は西洋間の寂寞を嘆じ、[illegible]鮮兩班は漸く食客を逐へり。

▲如何に巧辭令とは申し乍ら左夫人右夫人とは閨門の滑稽ならずや。

▲火事は人氣の花也、喧嘩は人事の花也、陰謀は韓人の花也。

▲東門外の尼寺は暴徒と時勢の爲めに御賽儀の收入例年よりも八割の減少なりと聞く鹿ケ谷は南山の御寺に移轉したる乎。

▲中井錦城曰く『朝鮮』は支那人の命名せし語なり、『日本』は朝鮮人の命名せし文字にして俱に東方の意義なりと、說平凡なれども時勢を歌ふの說なり、新時代を語るの[illegible]なり。

▲或人在韓英雄を評して曰く目賀田君は[illegible]台より大なる詩人にして海舟より小なる[illegible]事家なり、鶴君は正直なる石田三成に[illegible]て信仰なき小西行長なりと、然らば伊藤公は如何と問へば、曰く公は足利尊氏と豐臣秀吉を兼ねたる古今無比の英雄なり、曾禰子は細川幽齋の如しと、余此若雄と未だ[illegible]を接するの光榮を有せざるも、某の言も亦た平凡ならず、余更らに韓國英雄を問ふ、曰く宋秉畯氏は礦業者に適せり、李完用氏は閭口の狹き林有造君なり、高永喜氏は[illegible]傍の地藏樣にして暗夜の通行に慰安を與ふ[illegible]趙重應氏は氏神の神官たるに過ぎず、[illegible]の翅向院は李根澤と兪吉濬二氏の角力なる[illegible]べく、兪氏は亡分したることあれば最早[illegible]陸山となりて横綱をも貰ふ覺悟ならん。

▲鶴原氏と森林經營　鶴原[illegible]氏は昨日の議會に於て韓國森林經營の方針を說明せしが遠からずして森林經營の目的を達すべき旨を述べたり（七日發）

●李總理の招宴　總理大臣李完用氏は明九日各部大臣次官及び統監府の主なる高等官を掌禮院に招きて宴を張る由なるが當日は餘興として純粹なる韓國古樂を奏演する筈なり

●宮內大臣署理辭任　宮內大臣李允用氏は皇太子に隨行して日本旅行中侍從院卿閔丙奭氏之を代理し居りしが此程歸韓せしに依り一昨日其署理を解かれたり

●高崎男の叙勳　統監府囑托男爵高崎安彥氏は韓廷より昨年十二月二日付を以て勳二等八卦章を下賜されしも[illegible]受するに至らざりし處今回皇太子東京留學に際し功勞ありしを以て更に勳二等に叙し太極章を賜りたりといふ

●遠藤仁川局長の上京　遠藤仁川郵便局長は[illegible]打合せの爲上京する筈

●熊谷民長の青坡病院視察　熊谷民團長は昨日午後青坡病院に至り傳染病患者の狀態を視察したり

●大草分隊長本部訪問　榮山浦憲兵分隊長大草[illegible]四郎氏は或る用件を帶び去る四日上京憲兵隊本部を訪問し昨七日歸任せり

●ハリス博士　メソヂスト教會監督ハリス博士は今回[illegible]せられたるドレー[illegible]氏と共に教況視察の爲昨朝平壤に向て出發せられたり

●[illegible]天一支配人　[illegible]中なりし天一銀行支配人[illegible]氏は昨夜[illegible]せられたる筈なり

▲鶴原氏と森林經營

鶴原長官は本日の議會に於て韓國森林經營の方針を說明せしが遠からずして森林經營の目的を達すべき旨を述べたり（七日發）

●李總理の招宴　總理大臣李完用氏は明九日各部大臣次官及び統監府の主なる高等官を掌禮院に招きて宴を張る由なるが當日は餘興として純粹なる韓國古樂を奏演する筈なり

●宮內大臣署理解任　宮內大臣李允用氏は皇太子に隨行し日本旅行中侍從院卿閔丙奭氏之を代理し居りしが此程歸韓せしに依り一昨日其署理を解かれたり

●高崎男の叙勳　統監府囑托男爵高崎安彥氏は韓廷より昨年十二月二日付を以て勳二等八卦章を下賜されしも[illegible]受するに至らざりし處今回皇太子東京留學に際し功勞ありしを以て更に勳一等に敍し太極章を賜りたりといふ

●遠藤仁川局長の上京　遠藤仁川郵便局長は本日業務打合せの爲め上京する筈

●熊谷民長の青坡病院視察　熊谷民團長は昨日午後青坡病院に至り傳染病患者の狀態を視察したり

●大草分隊長本部訪問　[illegible]憲兵分隊長大草[illegible]四郎氏は或る用件を帶び去る四日上京憲兵隊本部を訪問し昨七日歸任せり

●ハリス博士　メソヂスト教會監督ハリス博士は今回同行せられたるドレーパー氏と共に教況視察の爲め昨朝平壤に向て出發せられたり

●天一支配人　過日來安東縣に旅行中なりし天一銀行支配人金泉幹太氏は昨夜歸城せられたる筈なり

秋月菊の傳　其九　粲生

意外に早き市作の折れ方に並木は内心半信半疑、果して彼れが其言葉通り其非を悟り過を悔ひ改むる心にして尙ほ且つ己れが背く待遇たる女房の後世を願ふ爲めに橋本氏の言葉に從ひ一千圓の支出をばなすべき心あるべきか當坐の道理に責められて言ひ爭ふは不利益との胸算當より割り出して陽にのみ殊勝らしき風を裝ひ居るにてはなきか悟も却々意の底より湧き出でたるものとは今日迄の彼れの所行から押し測れば今の悔サラ〳〵思はれず覺束なき限りなりと思へどこれを確むる爲ん術とてもなきのみならず死人を控へて兎や角と問ひ訊ぬるも面白からずと心に秘め、先づ左樣極れば話は落着なれば此れから後は葬送の仕度やら御相談やら肝要なれど斯うした事は男より女の方が何やら彼やら萬事都合の宜いもの故一先づ歸つて宅の妻に下女の一人も添けて伺はせまする故總て其れ等は御自分の女房同樣下女同樣遠慮はない故使つて被下、と云つた處で此の私は決して此のまゝ遁げる氣ぢやない宿屋稼業に此の一時が最も肝要の日雇時なれば一寸私の宅の方を眼張つて居ねば心配故一時失禮致す迄用濟み次第直ぐに又頼まれ御世話をやきに來ますと世話に砕けて立ち上る其尾を機會と橋本氏も他にも用事のある身なれば此れにて御免何分とも注文たる事丈けは少々無理かは知らねども何にも他人の爲めでなし、確とた覺悟下されよ診斷書の儀は少時して韓人をでも失禮致しましたと等しく其坐を立ち上るを居膝るが如く市作は送り出して稍々暫し後姿見送りしが聽てのてとチヨッと舌打ち諸共に立ち上りしが前面後背見廻し見廻し薄暗がりに物凄き笑を片頰に滿へ炎ゆるかと見ゆる紅の舌を吐きたる折もあれ後背に當りてサラリと開きし襖の音、コレはと驚く市作の袂に縋りたりしは是れなん先刻市作が伴ひ返りし怪しの女、今は亡き妻某が臨終の際迄心に懸けしたとみと呼ばるゝ女なるが、市作の貌怨めしげに見上げて、市作殿イカなる事のあるかは知らねど並木さやら云ふ瘦せ男や橋本とやら呼ぶ藪醫者の云ふ言々アレ程迄に聞かねばならぬ事があつてか橋本とやら云ふ奴は假令藪でも筍でも醫者ヂヤと云へば此の場合腹立たしせては不都合なれど大枚一千圓の正金を何う斯うせよとは餘計な差圖夫れを貴君が應諾しされ引き受けなさつた御了見が何う考へても腑に落ちぬ况して並木に至つては如何に懸意の中とは云へ元々他人の彼奴等に彼の樣に云はるゝ譯けが何處にあります、貴君が自身の女房を足蹴に仕ようが撲り殺さうが是れやてれ自由の權利とやらで彼れ等の知つたことではあるまい、何故に貴郎は彼の時に夫れと一本極め込んで遣りなされはせなんだが、尤も永年連れ添ふ女房のこと故に並木さやらの言葉により不憫がましてして過日中妾にせられた約束は異實反古にして終ふ心にズントならしやつたかと詰め寄る女の氣色にかへ、开を冷やかに見下して立ちたる儘に市作は何にも云ふな誰れが何んと云はうとも貴樣は已れの女房ぢや、へ、ヽ、ヽ仕事は流々己等の此處にと吾手に吾胸をトンと叩きて顔見合せ互ひにニタリと氣味惡き笑をぞ浮べて居たりける

鐵道運輸部の出火

一昨夜六時半頃南大門驛前統監府鐵道作理局運輸課主記室第三室より出火し見る〳〵內に該家屋全部を燒失せしが幸に四邊に家屋の隣接せしものなきを以て他に延燒せず大事に至らざりしは不幸中の幸といふべし扨原因はストーブの火より出でしとかにて出火時間は午後六時三十分鎮火せしは同八時三十分なるが最初出火を發見せしは同課守衛奥田義壽なる者にてアレ火事よ〳〵と叫ぶ間もなく折柄東北の風烈しかりしかば忽ち猛烈の勢を以て燒け上りたりしが消夫は時を移さず馳け付け來り漸く消し止めたりしが一時は却々の騒ぎなりき、而して其の損害高は約三萬圓にて其の半ばは過日我が東宮殿下御渡韓の際獻上せんとして保存せし貴重品なりしとか因に居留地消防夫の盡力は目醒ましきものなりしと何づれ詳細は明日報道すべし

●一月の氣候　當地觀測所に於て實測したる本年一月の氣候と昨年及平年一月のものとを對照すれば左の如し

	本年	昨年	平年
平均氣溫（華氏）	二六、二	三二、二	二七、七
平均最高氣溫（同）	三三、四	三六、一	三五、二
平均最低氣溫（同）	二〇、一	二五、三	二〇、八
高極氣溫（同）	四三、七	四九、六	五五、九
起日	十二日	五日	三十六年十九日
低極氣溫（同）	八、二	二、二	零度以下〇、四
起日	二十二日	十一日	三十年十九日
晴天日數	三	三	六
曇天日數	九	六	三
雨天日數	九	八	六
雪天日數	五	七	五
雨雪量（みりめーとる）	五	九	四

本表に依れば去月は昨年及び平年に比して低溫なりき又天氣は昨年及平年に比すれば稍不良にして曇天、雨天、雪天とも昨年及平年より多く殊に降雨雪は昨年及び平年に比すれば著しく頻繁なりしも其量に於ては平年より四割方少く昨年より七割方多かりし

●運送業者の不注意　由來韓人の性質として泥棒根性の熾んなるは今更ら云ふ迄もなき所にて彼の或る物品を荷馬車又は荷車に積載して道路を曳き行く其の後よりチヨンガー又はヨボ等が車を曳き行く人足の更に氣附かざるに乘じ其の最も盗み易き薪炭又は細々しき雜品を拔き取るは世人の屢々目睹せる處なるが近來は此の仕業殊に甚だしく當地に於ては南大門西大門の兩驛仁川にあつては仁川棧橋の二驛及び其の他の驛々より或る荷物を荷主の許迄運搬する途中如上の災を蒙る者頻々にして貨主の迷惑一方ならざるが分けて當地は著るしく貨主の損害鮮なからずといふ思ふに是れ窃取者の罪の憎むべきは勿論なりと雖も亦荷も貴重なる他人の物品を取扱ふ運送業者の大に細心注意すべき事どもなり

●嚴貴妃寺院に寄附　嚴貴妃は罪滅の心にや先日京城內各寺院及地方の有名なる寺院へ三圓若は四圓宛を寄附せられたりと云ふ

●主事當直料　韓國各部にては本年度より主事の當直料は金五十錢と定めたり

●韓一銀行出張店　同銀行にては一般金融の便利を圖る爲め西署東幕に出張店を開設し十日より營業を開始すと云ふ

●石合戰　一昨六日訓練院北山の砂山に韓人二百餘名集合し盛んに石合戰を爲しつゝありしが我警吏は斯くと聞きてこれを制止すべく出張せしに韓人どもは其の影を見るや直ちに四散せり

●清韓人の摑み合ひ　胡砂吹く風は肌寒しといはんよりは身を斬る如き今日此頃さすがに呑氣なる清國人は已が正月にもあらんが三々五々手を携ねて彼方此方を徘徊するありそが中に金申丙なんど呼べる者一昨夜中署の蝎市屋に至り一人の婦人を捕へていゝだれかゝりしに彼れ婦人は病氣の故を以てこれを拒みしに言語も通せざることゝて申丙は仲々承知せず何はも挑みかゝるより居合せたる韓人某がこれに口を添へたるに互に言語の通せざることゝて爰に兩者の大格鬪となりしが巡邏の警吏これを取押へて宥め諭し清國人を追ひ歸したりと

●鞄を遺す　本町五丁目の曾我可也は去る六日午後一時頃南大門よりの歸途車上にありて手に持ちし鞄をいつの間にか遺失しが中には重要の書類入れありしといふ

●他人の名を騙る　統監府の賄屋木島某の名を騙りて本町六丁目の山村雜貨店に至り首卷二枚を騙取し又本町七丁目の藤田下駄屋に至り下駄を騙取せし者ありとて某より其筋へ屆出たりしが其の惡漢は或は手飼の犬にはあらざるかといふ者あり

●ボヤ　去四日午前八時頃南洞四十九統七戶金聖粥方の溫突の烟り出しより出火せしが幸に早く消し止め大事に至らざりし

●商業界二月號　東京同文館發行に係る商業界二月號は本月一日發行したり口繪には歐米の商店會社倶樂部等の內部及び外觀の寫眞及歐米雜誌に現はれたる諷刺畫等あり論說記事等は何れも商業家の指針ならざるはなく亦た趣味薄くが如く讀んで卷の終るを忘れざる感あり正價十五錢本町二丁目日韓書房に賣捌けり

京仁間往復割引

來る四月一日以降に於ける當局鐵旅客賃金實施と同時に京、仁間往復旅客の御便利を圖り割引往復乘車券を發賣致し候

◎發賣區間 南大門 西大門 龍山 と 仁川 驛相互間

◎割引往復賃金 一等三圓 二等二圓 三等一圓 通用期限 三日間

本乘車券は往路券面着驛中の何れに下車し又は歸路何れの驛より乘車せらるゝも旅客の御隨意に有之候

明治四十一年一月

統監府鐵道管理局運輸部 電話八五一(營業課)

新築落成

龍山元町壹丁目

會席御料理 八景園

電話四六番

營業科目

活版活字鑄造 石版銅版 コロタイプ 彫刻諸印刷 諸帳簿 製本裝釘

本社 京城明治町三丁目 (電話三一三番)

日韓印刷株式會社

東京出張所 東京市京橋區南鍋町一丁目十番地 (電話新橋三九六二番)

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭 豆田塊炭 大辻塊炭 三池粉炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波、黑、藤棚 本洞、大之浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦 芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社 京城出張所 (電話二十六番) 仁川出張所 (電話六十三番)

極上材木、竹類、礦灰

座敷廻り諸材料特に注意取揃へあり

右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

(ト) 小森材木部

京城旭町一丁目 電話七四四番 本宅四〇五番

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓

積立及繰越金 七拾貳萬圓

株式會社 十八銀行 京城支店 京城南大門通 (電話四二〇)

本店 長崎市築町

支店 出張所 韓國 京城、龍山 仁川、木浦 釜山、元山 羅州、群山 日本 大阪、熊本 佐世保、嚴原 五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

木炭着荷

京城南大門通三丁目 英兄弟商會 電話九四八番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目

支店 釜山、仁川、平壤、鎭南浦、安東縣

株式會社 第五十八銀行 京城支店 (電話五八番)

爲替取組先

内地	東海道	二十七ヶ所
山陽道	北陸道	十三ヶ所
山陰道		七十五ヶ所
南海道	西海道	二十三ヶ所
北海道	韓國	五ヶ所
臺灣	清國	二ヶ所

(電話 二十八ヶ所 十ヶ所 十三ヶ所 三十三ヶ所 九ヶ所 一ヶ所)

藥

庭方調劑 藥品 賣藥 衛生材料

龍山櫻町 藥劑師 川瀨一五郎 商號 開壽堂藥房

本店 東京市日本橋區兜町

内地支店及出張所 大阪、京都、横濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城

清國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行韓國總支店

電話 營業部 一一番 國庫部 六一一番 當直用 同番 用度係 六一二番 營業部 三三二番・分拆所 六二二番

總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 三島太郎
副支配人 調查部長 竹山純平
副支配人 營業部長 市村雄次

出寫專務

審美館

寫眞師 高原華泉

寫眞師 奧田星華

明治町二丁目衛戍病院前

第二十二期營業報告

貸方 負債之部

諸預り金	五、一二〇、六二八・九二一
仕拂送金爲換手形	二三、四〇四・一一〇
借入金及再割引手形	一、四三四、一六六・九八〇
他店ヨリ借(四ヶ所)	三、四五四、八五三・七五〇
資本金	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
積立金	〇〇、〇〇〇・〇〇〇
仕拂未濟配當金	七・四二〇
當期利益金	一四〇、九一六・二〇〇
合計	一〇、二七三、〇七七・三八一

借方 資產之部

諸貸出金及割引手形	七、〇三三、九八〇・一九〇
荷爲替手形	二四五、〇〇四・一六〇
預ヶ金	二三七、七八一・三四〇
諸公債證書及諸株券	九七、一九五・九五〇
他店へ貸(三ヶ所)	一八五、四六一・〇〇〇
營業用地所建物什器	二四四、一五九・七九〇
拂込未濟資本金	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
雜勘定	六四、三五一・五〇〇
金銀有高	六六五、一四三・四五一
合計	一〇、二七三、〇七七・三八一

損益勘定

一金五拾七萬七千九百六十四圓五拾貳錢 當期總益金

内

金四拾五萬壹千六百參拾貳圓七拾五錢 當期總損金

差引金拾貳萬六千參百參拾壹圓七拾七錢 當期純益金

一金壹萬四千五百八拾四圓四拾參錢 前期繰越金

合計金拾四萬九百拾六圓貳拾錢 當期利益金

此配當計算左ノ如シ

金貳萬圓 積立金
金貳萬圓 別段積立金
金七萬五千圓(年一割) 配當金
金五千四百圓 役員賞與金及交際費
金貳万五百拾六圓貳拾錢 後期繰越金

右之通ニ候也

明治四十一年一月

大阪市西區北堀江通

株式會社 第五十八銀行

取締役頭取 高橋長秋
同 副頭取 楊井佐兵衛
取締役 楊井松太郎
同 富士田卯之助
同 小川爲次郎
同 森本清兵衛
韓國總支店總支配人 菅原大太郎

前記之各項調查候處相違無之候也

監查役 小林林之助
同 森脇茂
相談役 安田善次郎

監查役任期滿了ニ付改選ノ處何レモ再選就任セリ

齒科全般の治療

米國最新式義齒

米國齒科醫學博士 女醫 中村安子

京城本町六丁目(俗そば横町)

移轉廣告

當京城支店今般都合に依り南大門外御成町五十番戶千葉館前側に移轉仕一層業務勉勵確實可寧を主とし迅速に御取扱可申に付御用御仰付奉願候追而御用命の際は取次ぎ電話一二九番御呼出被成下度候

通關保税貨物 鐵道貨物取扱

仁川驛上 通關運送 小宮山 本店 (電話七一六)

同 支店 取次ぎ(電話一二九)

薪炭 石炭 食料品 雜貨 諸官衙御用達

たろし 小賣

京城長谷川町一丁目 神野商店

熊平製造金庫

東京 竹内製金庫

大阪二重瓶並二回轉式 消火器

韓國販賣部 京城本町一丁目 熊平商店 電話六二四番

京城明治町一丁目 (漢城病院筋向入)

高等下宿 日乃出館

弊館は設備完全にして最も閑靜なり 弊館は丁嚀懇切を以て特色とす

原金旅館

本店 仁川理事廳通 (電話三二番)

支店 京城南山町 (電話一〇七番)

興信事務及未墾地鑛山測量並設計土地家屋等賣買之紹介鑑定及調查廣告之取次

(業務、迅速、取扱)

京城興信所支局

京城旭町一丁目民團役所向角

新炭 松丸太

弊店儀從來永登浦に於て營業致し居り候處此度左記の處に於て開業一層勉强可仕候間多少に不拘御用命の程伏て奉願上候

京城南山町三丁目百四番戶 日本人俱樂部南入角

川西商店

手がるな料理店案內

京城大平町一丁目 九州樓

京城大平町一丁目 永樂亭本店

京城長谷川町二丁目 永樂亭支店

京城西小門内 南方亭 同支店

京城大平町 れた福亭

京城西小門内 日の出亭

京城大平町二丁目 新あづま

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告 (電話十番)

仁川海岸通 郡回漕會 貨物及船客取扱店 電話三九番

京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

● 釜山長崎門司神戶行 相模丸 二月十六日 後三時出

● 群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一オハヨ號 二月七日 後二時出 伊勢丸 二月十八日 後三時出 高松丸 二月十一日 後三時出

● 大連行 伏木丸 二月十八日 後一時出 新潟丸(船客不載) 二月九日未明

● 大連、芝罘、秦皇島行 相模丸 二月八日 前九時出

● 釜山出帆、元山行 弘前丸 一月十二日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ稅關前ノ事